

まるいん通信



自然体験活動指導者養成セミナーin屋久島



体験をとおして感動を伝えるみなさまへ

この講座は「伝わる」の本質を考え、人に気づきと感動を与えることのできる企画をつくるインタープリター（自然と人・人と人の懸け橋）をめざし、講義と実習を交え実践的に学んでいきます！詳しい内容はHPをご確認ください。

開催日	2022年12月6日（火）～9日（金）
定員	先着15名 ※締切12月1日（木）
参加費	23,000円（宿泊・食費・保険料等）
お問い合わせ	屋久島環境文化研修センター（福元） TEL：0997-46-2900 Mail：kensyuu06@yakushima.jp



写真データの寄贈がありました

写真家の日下田紀三さんから、これまで撮影されてきた6,315点もの写真データの寄贈がありました。

日下田さんは、財団の役員を歴任されるなか、これまでも財団発行書籍に無償で提供いただいております。

今回寄贈いただいた写真は、1981(昭和56)年以降の屋久島の自然や文化を撮影してきたもので、特に空撮ではヘリコプターではなく以前屋久島空港に就航していたセスナを使って撮影したことなどの撮影秘話をご紹介くださいました。

財団からは、日下田さんの篤志に感謝状を贈呈させていただきました。

インストラクター便り

秋の森にともる灯し火

すっかり肌寒くなり、秋も深まってきたこの頃です。秋と聞いて広く思い浮かべられるものは、冬に向け落葉しようとする葉が鮮やかに紅葉する様子ではないかと思えます。しかし、屋久島の森は冬でも葉を落とさない常緑樹が大多数を占め、残念ながら山いちめんの紅葉などは見る事ができません。それでも私は今月の半ばには始まるであろう、ある植物の紅葉を毎年楽しみにしています。

「アオツリバナ」という樹木は、九州南部から屋久島にかけての限られた地域にのみ生育していて、島内ではちょうどヤクスギの生えるようなやや標高のある森の中で、ほかの樹木にへばりつくようにして生えています。一般に紅葉といって思い浮かぶ色は、童謡のとおり「赤や黄色の色さまざまに」ですが、この「アオツリバナ」は、紫がかった桃色に紅葉をしたのち、徐々に桜の花のような淡い桃色がかった白へと移り変わっていきます。

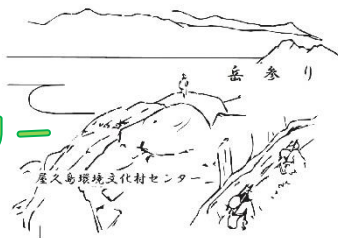
その様子は、コケやスギの鬱蒼とした森の中にぼんやり浮かぶ灯し火のよう。なんとも浮世離れしており、眺めているうちにまるでこの世とも思えないような別世界に迷い込んでしまったような気持ちにすらさせられます。

11月。ハロウィンには時季外れとなってしまいますが、ヤクスギの森に妖しくともる灯し火を見物に行ってみてはいかがでしょうか。



赤や黄色に紅葉しない「アオツリバナ」

三館合同 スタンプラリー



屋久島町内3か所の施設合同でスタンプラリーを開催します。

3か所すべてのスタンプを集めた方には、景品を用意しています。

この機会にぜひ各館にお越しください。

期 間	令和4（2022）年11月1日 ～令和5（2023）年3月31日
景 品	エコバック又は缶バッジ
参加費	無料

参加施設

●屋久島環境文化村センター

住所：屋久島町宮之浦823番地1

T E L：0997-42-2900

●屋久島町歴史民俗資料館

住所：屋久島町宮之浦1593番地

T E L：0997-42-1900

●屋久杉自然館

住所：屋久島町安房2739番地343

T E L：0997-46-3113

【11月・12月の休館日】村センター・研修センター休館日は同じです

11月：7日（月）・14日（月）・21日（月）・28日（月）

12月：5日（月）・12日（月）・19日（月）・26日（月）・28日（水）～31日（土）

研修課インストラクター：中村 幹（かん）



屋久島を想う

アテンダント
青木 恵麻

私は生まれた時から屋久島で暮らしています。両親が登山ガイドの会社を経営しているため、幼少期から登山やキャンプをたくさん経験し、自然と触れ合ってきました。

特に川で遊ぶことが好きで、私は川で泳ぎを覚えました。

屋久島にずっと居るので、すぐ近くに自然があることが当たり前だと思っていましたが、高校を卒業してから屋久島を離れる機会が多くなり、屋久島の空気や自然は当たり前の存在ではないということを実感しました。

私は宮之浦と安房に住んでいたことがありますが、集落によって雰囲気や空気感が少し違うので屋久島全体を一括りにせず、地域ごとの空気感も屋久島の魅力だということを感じて、これからも大切にしていきたいです。

少し歩けば海が見え、反対を向けば山が見えるという環境は私にとって観光客の方々にお伝えしたい最大の屋久島の魅力です。

屋久島は移住者の方も多いので、地元の方と移住者の方が手を取り合って屋久島をより良い島にできるよう取り組んでいってほしいと思います。